

「税は希望の光」

博多女子中学校

西田 彩夏

一年前の夏、私は突然暗闇に突き落とされた。どうしようもない現実を受け入れることができず途方に暮れた。あの日までの私は、澄み渡った明るい未来しか想像していなかった。

数学と理科が大好き。実験も観察もワクワクが止まらない。数学の問題が解けた時の爽快感は病みつきになる。将来の夢ももちろん理系の道に定めていた。憧れの職業もあった。スポーツを大好きで短距離走には自信があったこともあり、高校生になったら陸上部に入るんだと思っていた。

だが大学で医療を学んでいる姉に指摘され受診した病院、そこで撮影したレントゲン画像には美しく S 字にカーブした私の背骨がうつっていた。私は特発性側彎症と診断された。それからの私は大好きな数学の問題にも集中できず、暗闇に放り出されたような孤独と不安を抱えて過ごした。身体を固定する装具を装着して過ごしたが症状は悪化。手術が必要となるギリギリの状態で私は今を過ごしている。そのような日々の中で、人の温かさ、税金の有り難さを知った。医療費の助成制度のおかげで高額な装具代も受診料も補助していただいている。手術は驚くほど高額だが、高校生まであれば子ども医療費助成制度の対象になると説明を受けた。所得によって育成医療という制度もあるそうだ。金銭面での不安が解消できただけでもとても安心だ。

病気の影響で私には誰もが普通にできるまっすぐ立つことができない。同じ姿勢を保つことも痛みでつらい。そんな私を理解してくれようとする友達や先生の存在がとてもうれしく心強い。手術を思うと恐怖しかないが、暗闇の中で見つけた光。税金の有り難さと人の温かさを知れた私は、きっと誰にも負けない強さを得たはずだ。受験生の今、もう一度一年前までの私が見て明るい未来に向かって頑張ろうと思う。

国民の皆が一生懸命働き、その中から納めてくれた税で、こうして救われる人間がここにいる。税金は無駄なんかじゃない。将来しっかり納税できる大人になって、社会にそして困っている誰かに納税という形で恩返ししようと誓った。